

請 願 文 書 表

(総合企画局)

受 理 番 号	3 4 8	受 理 年 月 日	令 和 6 年 9 月 17 日
件 名	北陸新幹線延伸計画の強い懸念表明		
要 旨	<p>8月7日に北陸新幹線京都市縦断案（3ルート）が公表され、8月21日には、これについて松井孝治市長のインタビューが掲載（京都新聞）された。私たちは、今回の市長のインタビューを歓迎する。</p> <p>松井市長は、「地下水や財政負担などへの影響に強い懸念を示し」、「現時点では（延伸計画について）極めて慎重な判断にならざるを得ない」と語っている。京都の地下水の重要性について、「千年以上にわたって食文化や伝統工芸など様々な文化を形作ってきた」とその重要性を述べ、地方自治体が支払う財政負担について、「相当の金額になると思う」、「長期間にわたって財政を圧迫する」と述べている。</p> <p>京都市長は市民にとっての便益と負担を考え、こうした表明をした。こうした中で、京都のまちと環境・地下水や京都市財政に与える多大な影響を及ぼす北陸新幹線延伸計画の京都市内縦断案に対して、京都市会がその良識を發揮し、同計画に対して同様の強い懸念や断念を表明することを強く願う。</p> <p>私たちはこの間、京都市会各会派の皆さんと意見交換を進めてきたが、現在の巨大トンネル計画には、多くの皆さんが危惧の念を持っている。京都の地下を巨大トンネルで貫く現計画には、4.8兆円から5.3兆円（将来の物価上昇を見込んだ場合）の巨額の税金投入が求められること、完成予定が20から28年後など、事業の必要性は既に説得力を失っている。</p> <p>先の鉄道・運輸機構の調査では、ばく大な掘削土砂について、その量と共に、その30パーセントが環境基準を超えた重金属を含むことが明らかになっている。ただでさえ処理の展望がない掘削土砂だが、その30パーセントは最終処分地が必要な要対策土である。水の汚染や大災害の引き金になることが危惧される。京都の地下水の汚染や枯渇に強い心配の声が広がっている。巨大トンネルが地下を横切る桂川や宇治川、鴨川などの流量の減少、枯渇も心配である。</p> <p>京都の地下を巨大トンネルで貫く北陸新幹線延伸計画は、無理筋の計画である。この計画の断念は、京都市民の強い願いである。</p> <p>については、計画推進を憂慮する京都市会議員の皆さんが、松井市長の表明を受けて、市会としても北陸新幹線京都市縦断案への強い懸念を表明することを願う。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	井崎 敦子、山本 陽子、森田ゆみ子、加藤 あい		
付 託 委 員 会	総務消防委員会		